

# 黒岩探訪

たんぼう

7

KUROIWA  
くろいわ

## 養蚕の面影残す北村家

おもかけ

今回取り上げさせていたたくのは、下黒岩田中の北村家です。学校でも四年生が蚕を飼育中ですので、この機を捉えて北村家の了承を得たうえで紹介させていただきます。四月に三年生とまち探検で学校周りを歩いた時に、ものすごい養蚕農家造りの北村家が目にとまりました。切妻造りの三階建て農家です。昭和六年建築とのことでした。時代的には明治までさかのぼるわけではありませんが、これだけしつかり三階建てで残っている建物は、あまりないのではなにかと思えます。少なくとも富岡市では初めて拝見しました。後日、お話を伺うとともに写真を撮らせていただきました。三階は八間半×四間半（約七十六畳）の大空間です。一間ごとに太さ三十センチほどの丸太を梁に使用しています。蚕上げの時の回転まぶしは、三段にして下げたそうです。また二階のすべてが一階の使える部屋も利用したそうです。



写真1 三階建て養蚕農家の北村家



写真2 三階の様子と梁の小屋組み



写真3 屋根裏棟木直下の神棚

話を伺っていて一番驚いたのは、春蚕（はるご）は百八十も飼育したということでした。\*①この数値は蚕種（蚕の卵のこと）の重さを表します。私（永井）の家では最大で四十だっただけですが、それでも家中蚕だらけで、蚕に生活を圧倒されるような感覚がありました。それを思うと家族経営の四名で百八十をやりきるのには私の想像を超越します。北村家では、昭和六十二年まで養蚕をされたそうです。一年のサイクルは、春蚕・百八十、夏蚕（なつご）七十、夏（遅）・初秋蚕（しよしゅうさん）七十、晩秋蚕（ばんしゅうさん）百五十、晩秋（ばんばんしゅうさん）三十のことでした。とても大規模な養蚕農家だったようです。規模が大きかったため稚蚕共同飼育所ができて自宅に土室（どむろ）を作り、温度管理をして蚕種の掃き立

て（卵からかえすこと）をしたそうです。このような農家は、黒岩地区に三軒あったそうです。また、その蚕種は、高知県の藤村製糸会社から購入し、繭もこの業者に売ったそうです。\*②  
黒岩地区の養蚕が盛んだった時の記録を残しておきたいと思い今回掲載させていただきました。富岡製糸場が注目される昨今ですが、地域の絹産業の歴史も忘れないようにしたいと思います。  
\*①農家はどのくらい蚕を飼うか蚕種の重さで注文しました。百八十とは百八十グラムのこと。十グラム二万数千頭として、四十五万頭ぐらいになります。ちなみに今学校で飼っているのは六百頭です。  
\*②藤村製糸は群馬県との関係も深く旧群馬町に事業所を構え繭を買い集め殺蛹（さつよう）後、高知へ送っていたようです。